



児童の共同作業で描きあげた「白鳥飛来地」の絵

(1) 育成
 基本的な生活習慣の形成の実践
 —一年「あいさつの木」の例—
 カード「あいさつの木」に、元気な声で「おはようございます」が言えたら、木の実際のシールを貼る。また、あいさつの他に、「はずかしがらずに」「大きな声で」「自分の方から」「おうちの人や上級生にも」と、範囲を広げさせる援助指導をし、励ましてきた。

—二年「がんばりカード」の例—
 きびきびした返事やていねいな言葉づかい、チャイムで席に着くなどの基本的な生活習慣を身に付けさせるため、「ステップ・どりよくカード」を作成した。毎日、自分の行動を自

資料2 「白鳥をむかえる会」活動の過程

活動・内容	係	時間	指導上の留意点 * 生徒指導との関連
1. 入場・整列 各級ごとに並ぶ	進行()	2	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。
2. 歌「ふるさと岡山」を歌う	伴奏() 指揮()	2	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。
3. はじめの言葉	()	1	○ 集話の導入。 * 主体的に参加する。
4. 集会 (1) 白鳥の話の聞く (2) 餌を贈る (3) ジグソーパズル競争をする (4) 白鳥を題材にした絵を完成させる	児童会代表委員 ()	8 3 15 3	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。
(5) 歓迎の呼びかけをする。 ・歓迎の言葉 ・歌	()	6	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。
5. インタビュー	指揮() 伴奏()	4	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。
6. 係の先生のお話	()	3	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。
7. おわりの言葉 8. 整列・退場	()	1	○ 鳥の鳴き声を聞きながら、心を落ち着かせる。 * 静かに待つ。

7. 評価
 (1) 一人一人が自分の役割を果たし主体的に集会に参加できたか。
 (2) 集会を盛り上げるように適切に自分を表現できたか。

集会部

己評価し到達度に合ったシールを貼る。親と教師がそのがんばっている姿を見て、賞賛し意欲付けを図ってきた。

—五年「自己評価カード」の例—
 教育目標具現を図るため、努力目標の学習、生活、健康(体)のそれぞれについて問題点を話し合わせて、学級目標を決定させた。それについて、自己の一週間の目標を立てて取り組み、自己評価させた。

(一) 自己を生かし、生き生きと集会活動に参加できる児童の育成
 (1) 集会活動のねらい
 集会活動は、児童が意欲を持って取り組めるように、児童の考えや地域の自然や文化・伝統を十分に生かした活動を計画した。特に、児童自らが課題を持って自主的、自発的に取り組む過程や、自分の考えを生かして課題解決し、自己実現の喜びを味わう体験を重視してきた。

このために、低・中・高学年のテーマを設定し、具体策を立てて実践してきた。

- 高学年テーマと具体策の例—
 「主体的に集会に参加できる子供」
 具体策
 ・ 一人一人の特性を生かし、自主的に活動する場を設定する。
 ・ 地域の自然・文化などの素材を積極的に取り入れ、特色ある集会を進める。
 - (2) 集会活動の計画(高学年の例)
 六月 愛鳥集会
 十一月 白鳥をむかえる会
 二月 岡山祭り
 - (3) 「白鳥をむかえる会」の実践例
 本校の五、六年生は、緑の少年団として阿武隈川に飛来する白鳥の世話をしている。しかし、児童の関心は意外に低く、いつ、どこから飛来したのかさえ知らない子が多かった。
 六月に、小鳥の森で「探鳥会」を行い、さらに「愛鳥集会」を通して、鳥に対する関心が高まってきている。地域の特性を生かした白鳥に関する集会を企画し、実践を試みた。
- 白鳥をむかえる活動を通して、一人一人に自分の役割を果たしながら、主体的に活動させるよう配慮した。
- ① 餌集めの活動を通して、一人一人が自分の役割を果たす機会を持った。
 - ② 白鳥をたたえる歌を募集した結果、「ようこそ白鳥」を、児童の手で作詞・作曲することができた。
 - ③ 集会活動のイベントとして、ジグソーパズルのゲームをするため、事前に、白鳥飛来地(阿武隈河畔)の